

記者懇談会の記録

日 時	令和 8 年 5 月 29 日（金） 15：30～15：55
場 所	岩見沢市役所 3 階 会議室 3-5
記者数	1 人

1 岩見沢プレミアム商品券について

（市長）

岩見沢プレミアム商品券について、1セット12枚、12,000円分が10,000円で購入できるため、20%のプレミアム率となっており、10万セットを用意しております。

なお、12,000円のうち、7,000円分は岩見沢市に本社を置くお店で使用できる地元券としております。

受付は5月20日から既に開始されており、5月31日までの申し込み期間として、応募多数の場合は抽選を行う予定をしておりましたが、現在の売れ行きが6割ぐらいということで、5月31日までの申し込みの締め切りを10日間、6月10日まで延長して、予定数の10万セットに達した時点で締め切るとのことで考えております。

また、券の使用期間は7月20日から令和9年1月19日までとなっております。

5月27日時点の状況で、申込率が56.0%となっております。

前日も終盤、締め切り間際の1日で10%近く上がるということもあったということですので、状況を見ながら、期間を延長するということとなります。

<質疑応答>

（北海道新聞）

物価高で生活が皆さん大変だと思いますので、人気が出るのではないかと勝手に予想していたのですが、プレミアム建設券の方は抽選にもなりましたが、何故、プレミアム商品券が56%、6割弱にとどまっているのでしょうか。

（市長）

詳しく状況はまだ分かっておりませんが、商工会議所の方からの話では、今回は20%のプレミアム率ですが、前回は30%のプレミアム率ですので、目減りした感じがするのではないかとということと、これから物価高となる影響に備えて現金を手元に置いておくというのではとお考えの方がいらっしゃるのではないかとのことでした。

原因について詳細は分かりませんが、20%のプレミアム率ですので、是非ご購入いただければと思っております。

(北海道新聞)

売り切れるまで売るとのことですか。

(市長)

6月10日まで締め切ります。残った分については別の使い方を考えたいと思っています。

2 岩見沢市内における農作業（春作業）の進捗状況について

(市長)

春の農作業等の進捗状況についてでございます。

今年は、昨年の冬が降雪量が少なく気温も高い日が続いたことによって、融雪が急速に進み、本年は平年より24日早い3月7日の融雪期を迎え、春作業は極めて順調に開始されました。

空知農業改良普及センターが例年農作物生育状況調査を取りまとめておりますけれども、水稲につきましては、播種期が平年並みの4月21日となり、播種終わりは平年より1日早い4月26日となっております。

また、苗の生育は順調で、移植作業、田植えは、平年より1日早い5月16日頃に始まり、現在市内全域で移植作業が進んでいる状況、かなり終わっておりまして、5月26日時点で、7～8割の移植が進んでおり、今月末には移植終わりを迎える予定でございます。

玉ねぎにつきましても、移植が平年より10日早い4月8日から始まり、平年より4日早い4月27日に終わりを迎えております。

平年より高い気温で推移し、適度に降雨もあった、もう少し雨が欲しかったという話も直接聞きましたけれども、生育は極めて順調に進んでおります。

次に、秋播き小麦につきましては、融雪が早かったため、茎が立ち上がり始める起生期（きせいき）を早く迎えるなど、平年より早く生育が進んでおり、草丈、茎数ともに平年を上回るなど順調な生育状況となっております。

<質疑応答>

(北海道新聞)

農業関連で、燃料の影響、特段影響はないというJAの会見もありましたが、今年は大丈夫でも心配なのは来年になるのでしょうか。

(市長)

そうですね。ホクレンが化学肥料の価格をかなり上げるということで、二十数%値上げされることが報道されていましたが、それから、燃料関係も今後上がってくることが懸念されているということなので、今のところは具体的な話は直接私もまだ聞いていませんけれども、これから経費が上がってくる、特に肥料関係がかなり上がることは確実なので、十分動向を注視して、必要があれば、JA等とも協議していきたいと思っています。

3 令和8年度石狩川水系幾春別川総合水防演習について

(市長)

石狩川水系幾春別川水防演習についてご説明いたします。

この水防演習は、水防に対する地域住民の理解を深めるほか、地域全体の防災意識の高揚を図ることを目的として、毎年北海道内で開催されております。今年は、6月6日土曜日に、岩見沢市北村地区河川防災ステーションにて開催されます。主催は、北海道開発局や北海道、また、岩見沢市を含めた幾春別川流域内の市町村、具体的には、岩見沢市・美唄市・三笠市・月形町・新篠津村となっております。また、演習の参加規模は、来賓や一般の見学者も含めると、1,200人程度を想定しております。

北海道内で毎年開催されていますが、幾春別川では平成24年の開催以来2回目ということになります。

当日ですが、演習訓練は9時30分から11時50分まで行います。訓練内容は、避難所の開設や、住宅浸水を防止する訓練、土のうを用いて越水(えっすい)防止や洗堀(せんくつ)・漏水対策など、多種多岐にわたります。訓練状況は会場内に用意されている大型ビジョンにも映りますので、どんな訓練をしているか一般の来場者にも分かるようになっております。また、岩見沢市で毎年実施している「市民参加による防災訓練」を今年は本演習との共同開催としており、北村の地域住民の方も住宅浸水防止訓練に参加するほか、毎年参加いただいている企業や団体も、演習に参加したり、地域交流会場にてブースを出す予定でございます。この他にも、水防に関するいろいろな体験が出来るブースや、地域の特産品などを販売しているブース等、訓練以

外のコーナーもございますので、多くの方々にお越しいただきたいと願っています。

次に、新たな防災気象情報についてです。

「防災気象情報」が大幅に見直され、今日から本格運用がスタートしています。

主な変更点は 3 点になります。1 点目は、警報・注意報発表時にレベルが付記されます。2 点目は、河川氾濫に関する特別警報が新設されます。3 点目は、レベル 4 相当情報として「危険警報」が運用されます。

「新たな防災気象情報」の運用に伴い、市といたしましても、「地域防災計画」や「防災マップ」の修正を速やかに行うとともに、市民への周知を図ってまいります。

具体的な取組みとしては、まず「広報いわみざわ 7 月号」で、新たな防災気象情報の見方や避難のタイミングについての特集記事を掲載します。

あわせて、コミュニティ FM「FM はまなす」で週 2 回放送しています市の防災啓発番組において、新たなポイントを分かりやすく解説する予定です。

さらに、広報紙やラジオ放送に加え、地域で行っている「出前講座」でも周知を図り、市民の皆さまに「新たな防災気象情報」を浸透させていく取組みを進めていきたいと考えています。

<質疑応答>なし

4 北海道のアールブリュット 2026 について

(市長)

北海道のアール・ブリュット 2026 についてでございます。

岩見沢アール・ブリュットギャラリーは、昨年 6 月に中心市街地の空き店舗から絵画ホール・松島正幸記念館に移転して 1 年が経過するところです。

6 月 4 日から、道内の注目作品を集めた「北海道のアール・ブリュット 2026」を開催いたしますので、その概要をお知らせいたします。

今回の展覧会では、市内作家さん 1 名を含む、8 名の作家さんによる絵画・立体作品を展示いたします。新聞やテレビ等、多くのメディアで取り上げられている札幌市の画家「HIROTO」さんや、新得町にお住まいの全盲の画家の方など、全道各地の個性あふれる作家さんにお声がけをさせていただき、快くご出展いただいたところです。6 月 6 日土曜日には、HIROTO さんのお母さんをお招きしてのギャラリートークも実施する予定です。

また、絵画ホールでは、松島正幸氏の常設展のほか、年間を通じて様々な企画展も開催されておりますので、多くの方々にご来場いただき、様々な作品とあわせて、アール・ブリュットをお楽しみいただきたいと思いますと考えております。

<質疑応答>なし

5 その他記者から質問

<質疑応答>

(北海道新聞)

今日、速報値が発表になりました国勢調査なんですが、全体的にどこの市町村も減っている状況なんですが、岩見沢市に関しましては、前回は約 5,000 人で、今回は約 6,000 人の減。流出もあるでしょうし、亡くなられる方もいらっしゃると思うのですが、人口の維持として有効策はないのでしょうか。どのようにお考えでしょうか。

(市長)

2014 年の地方創生の国の方針では、人口を増やす、もしくは維持をするというような方向だったんですが、去年からの新しい地方創生の方針では、人口が減ることを前提として、政策やまちづくりを進めていくというような方針に明らかに変わっています。岩見沢市としても、人口減少を前提としたまちづくりを進める必要があるということはずいぶん前からそういう方針を出していたのですが、現状で速報値は 7 万 3,004 人でしたが、これが確報値となると若干数字は移動して減ってくるのかなという予想もしていますけれども、年間約 1,200 人の人口が減ることになります。

その大きな要因は、出生数が大きく減っているということです。1 日単位で直すと大体 1 日 0.8 人ぐらいの出生数になるかと思いますが、亡くなる方は逆に増えて 3.6 人。その差し引きだけで、1 年で約 1,000 人が自然減となり、それだけの大きな影響が出てきますので、出生数を上げたいということで、子育て支援について以前から取り組んでいるのですが、出生数の数字としてはなかなか追いついてこないところです。こども・子育て施策に関しては、質を高めていくということで、かねてから北大 COI とも連携をして、低出生体重児の減少ですとか、これまでは未就学児を対象とした母子健康調査についても、今は、学童期まで対象を広げて、継続して北海道大学と連携し、調査研究を行っております。

そういったものを生まれる前から生まれてからもご家庭にしっかり提供していきたいということと、暮らしやすさといった点は、ベースとしてしっかり構えていきたいと考えています。

社会減は発生していますけれども、以前のように 600 人近く減っているわけではなく、大体 200 人台ぐらいで推移していますので、ある程度の抑え込みはできていると思

いますが、それでもやはり自然減の影響、少子化の影響が大きくなってきていると思います。

5年前の国勢調査に比べて、生産年齢人口も減っていますが、その減り方よりも年少人口の減りの方が大きいのだろうと。これから、確報値で年齢別ですとか男女別ですとか、内容が整理されてくると思いますが、ただ、こどもの出生に関しては、岩見沢市は国が行うよりも随分前から不妊不育症治療の助成を独自にやっております、人工授精等、その制度を使って出産されるケースは、年間20件くらい、出生数の8%くらいは制度をご利用いただいております。

生まれる前からも生まれてからも、母子ともに健康で、なおかつ、これからは、自分らしい選択のできる生き方を目指す、健康経営都市でもあり、プラチナシティでもあるということで、岩見沢市としてはそういう社会を目指していきたいなと思っています。日本全体でこれだけ人口が縮小していることを考えると、少子化対策が一番だと思っています。人口減少ということを前提として、どういう岩見沢市を作っていくかということがポイントになるのではないかと考えています。

(北海道新聞)

中東情勢で前回から変化はありますか。

(市長)

各部で状況調査を随時サウンディング調査も含めてやってもらっているのですが、市の関係で申し上げると、入札の発注については、以前お話した市営住宅、3条西16丁目の市営住宅については、ユニットバス関係の発注の受け入れが出来ましたので、来月の18日に入札執行で準備しています。ただ、納期が遅れるということは想定しなければならないと思います。それから、工事請負契約の場合は、スライド条項というものを契約に入れており、例えば、使う資材費がこれだけ上がったからその分契約内容を変更して工事請負金額を増額する協議をしましょうといった内容です。

現在、水道の配水管の布設工事で、3件ほど単品スライド条項の申し出が出ています。これは、実際の納入額等の協議をしながら、最終的にはまだもう少し時間がかかる話ですが、基本的には、岩見沢市は中東情勢も含めて増要因は色々あると思いますが、契約約款に則って、単品スライド条項として適切に対応していくこととしています。発注自体は順調に進んでいます。今後、影響を心配しているのは、塗料関係です。塗料関係がかなり見通しが厳しい状況があるようです。影響としては、先ほどの3件の単品スライド条項の申し出があったということぐらいでとどまっていますが、今後も影響について注視していきます。

(北海道新聞)

プレミアム建設券の工期の終了期間についてはどうなっていますか。

(市長)

商工会議所さんと協議中ですが、私自身の腹づもりとしては、終期を 1 カ月程度後ろに伸ばして、抽選に当たった方には、できる限りご活用いただきたいと思っています。

また、市立病院の納入の関係ですが、国の方でも医療関係に優先的に物品を配布するというスキームが出てきましたけれども、それはそれで、そうなったときに即座に活用できるよう色々準備していますが、現在、市立病院は、納入業者から毎月一定のロットを安定的に納入していただいているので、今のところ納入に関しては対応できています。ただ、これから先、特に秋以降どうなるかは、これからの問題になってくるので、世間でよく言われている手袋がないとかそういったものは、クリニックさんですとか診療所さんですとか、毎月必要数を在庫として納入するとか購入するわけではなくて、何か月分かをまとめて発注するケースがほとんどだということで、そこにその品物がなくなるということで多めに発注されるようなことになると、納入業者が対応出来ないことも想定されますけれども、市立病院の場合は、一定のロットでの納入が来ていますので、そこは、今のところ大丈夫ですが、原料が入ってこない場合はどうしようもないです。

また、これはまだ確定的な話ではないのですが、市のゴミ袋については、1 年分の生原料等については確保しているのですが、その原料が、以前も申し上げた高密度ポリエチレンを確保していますが、原料費自体は上がってるので、1,300 万円の増加費用が生じています。それは予算をかき集め、既に対応しています。従って、手数料は上げないということなんですけれども、医療用の資材の影響で不足が見込まれるようなときには、そちらの方に優先して原料を供給する可能性があるということで、岩見沢公明舎さんに袋詰めをお願いしているのですけれども、そういう話を聞いています。正式な話ではなく、可能性があるかもしれないということですね。

買いだめをされるとなかなか大変なことです。改めて、ゴミ袋に関しては市内の在庫状況などの報告を受けており、十分対応できる状況ですが、今後、秋以降どうなるかは不透明な状況です。

(注) この記録は、重複した言葉遣いや明らかな言い直しがあつたものなどを整理した上で作成しています。(作成：総務部秘書課広報室)